

教育委員会会議録

令和5年（2023年）3月定例教育委員会会議

開 会 日	令和5年（2023年）3月23日（木）	
開 会 時 間	午後2時00分 ～ 4時10分	
開 会 場 所	SPring熊本花畑町 7階 D会議室 ※一部オンライン開催 オンラインでの出席者については各執務室	
出 席 者	委 員 会	遠藤洋路 教育長 小屋松徹彦 委員 苫野一徳 委員 澤栄美 委員
	事 務 局	松島孝司 教育次長 中村順浩 教育総務部長 田口清行 学校教育部長 他
提 出 議 案	<p>議第18号 教育長の営利企業等の従事について</p> <p>議第19号 熊本市教育委員会事務局内部組織規則の一部改正について</p> <p>議第20号 熊本市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部改正について</p> <p>議第21号 熊本市教育委員会職員証規程の全部改正について</p> <p>議第22号 熊本市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例第19条の規定に基づく教育委員会が給与を定める職員等に関する規則の一部改正について</p> <p>議第23号 令和5年度（2023年度）熊本市小学校教科用図書選定委員会委員の委嘱について</p> <p>議第24号 熊本市博物館の登録に関する規則の全部改正について</p> <p>議第25号 職員の懲戒処分について</p>	
報 告	<p>(1) 子どもたちの心のケアについて</p> <p>(2) 令和4年度（2022年度）熊本市学校給食運営協議会評価報告書について</p>	
自 由 討 議	(1) 教育委員会行政視察について	
署 名	苫野 一徳	
	遠藤 洋路	
会議録作成者	教育政策課 玉野あゆみ	

<p>〔開会の宣告〕 遠藤洋路 教育長</p> <p>〔会議の成立〕 遠藤洋路 教育長</p> <p>〔公開の審議〕 遠藤洋路 教育長</p> <p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>令和5年3月定例教育委員会会議を開会いたします。</p> <p>本日は、私の他3人の委員が出席しておりますので、この会議は成立しております。 会議録署名人は、苫野委員と私とします。</p> <p>本日の会議の内容につきましては、会議日程のとおりですが、招集通知後に追加で協議をお願いしたい案件が発生したため、案件を追加しております。当該案件は、議第24号 熊本市博物館の登録に関する規則の全部改正について、及び、議第25号 職員の懲戒処分についてです。</p> <p>また、本日の議事のうち、議第25号 職員の懲戒処分については、「教育委員会に属する職員の任免その他の身分取扱に関する案件」であること、議第23号 令和5年度（2023年度）熊本市小学校教科用図書選定委員会委員の委嘱については、委員・研究員の氏名を公開することにより、率直な意見の交換又は意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがある「その他の案件」であることから、会議規則第13条第1号及び第4号の非公開事由に該当し、非公開の審議が適当と思います。</p> <p>議第23号及び議第25号につきまして、非公開に賛成の委員は、挙手をお願いします。</p> <p style="text-align: center;">（全員挙手）</p> <p>全員賛成により、議第23号及び議第25号は、非公開とします。</p>
<p>日程第1 前回会議録等承認</p> <p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>2月24日開催の令和5年2月定例教育委員会会議録、3月6日開催の令和5年第2回臨時教育委員会会議録、3月20日開催の令和5年第3回臨時教育委員会会議録を各委員のお手元に配布しております。この会議録を承認することに、ご異議はありませんか。</p>

（異議なしの声）

異議なしと認め、前回会議録等を承認することに決定します。

日程第2 事務局報告

・（1）事業・行事等報告について

- 前回定例会議（R5. 2. 24）以降の事業・行事報告
- 今後の予定

澤栄美 委員

今年の中学校の卒業式は例年に比べたら非常に早い時期でした。もしかしたら以前に話題に上がっていたのかもしれませんが私の記憶にないので、なぜ早くなったのか、来年以降はどうなるのかということについて教えていただきたいです。

田口清行 学校教育部長

卒業式につきましては、昨年度もこの時期でした。入試後に、コロナで受験できない方の対応を行われるということで、高校の入試関係の時期が少し繰り上がっておりまして、合格発表もその分早くなるということで、卒業式もその兼ね合いから繰り上がっている状況になります。

そのため、今後、高校入試の実施時期がどのようになるかを見ながら、また検討する必要があるのかなと思います。

澤栄美 委員

分かりました。高校入試の関係でということですね。

遠藤洋路 教育長

では、本件に関して、他にご発言はありますか。
ご発言がなければ、本件は以上といたします。

日程第3 議事

・議第18号 教育長の営利企業等の従事について

遠藤洋路 教育長

議第18号 教育長の営利企業等の従事については、私の一身上に関する案件です。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第6項の規定により、当事者は、議事に参与することができないこととされています。本日は、第一職務代理者である出川委員が欠席のため、第二職務代理者である小屋松委

小屋松徹彦 委員

員に議事の進行をお願いしたいと思います。

それでは、私が議事の進行を務めさせていただきます。
教育長から、当事者は議事に参与することができないとのご説明がありましたので、教育長の退室をお願いします。

（教育長退室）

《中川浩二 教育政策課長 提出理由説明》

〔採決〕 【原案どおり承認された】

（教育長入室）

・議第19号 熊本市教育委員会事務局内部組織規則の一部改正について

《中川浩二 教育政策課長 提出理由説明》

苦野一徳 委員

教育改革推進課について2つお尋ねをしたいのですが、1つ目は、市立学校だけではなくて教育委員会の改革に係る事項についてとありますが、例えばこういったものが教育委員会の改革の内容に当たるのかということ、それからもう一つ、かなりお仕事が増えたと思いますので、どれくらい人員的に拡充されるのかということをお聞きできればと思います。

中川浩二 教育政策課長

学校改革推進課を教育改革推進課に改編することにつきましては、先ほど申しましたように、これまでは高校、専門学校の改革、それから市立幼稚園の在り方、義務教育学校の設置、教職員の働き方改革、それから校則、生徒指導の在り方の見直しなどに取り組んでまいりました。

次年度以降は、よりよい教育環境のため、新たな学校規模適正化推進計画の見直しであったり、教職員の不祥事が相次ぎましたことを踏まえ、体罰等様々な諸問題に適切な、組織的な対応ができる地方教育行政体制の検討など、先ほど申しました教育

遠藤洋路 教育長

行政審議会において議論をしていくことを踏まえまして、学校のみならず教育全般の改革について取り組んでいくということで組織の名称を改編させていただいたところです。

2点目の人員の拡充につきましては、市全体の中で人員体制が非常に厳しい中ではございますが、工夫をして配置を検討させていただいているところでございます。詳細につきましては、明日内示を控えておりますので、今日はこのような回答とさせていただきます。

教育委員会の改革というのは、以前、教育委員会会議でも1回お示しをしまして、主に総合教育会議でも議論した内容になるかなと思います。具体的には教育行政審議会の中で議論をしていただくということになると思っています。

他にご意見、ご質問はありますか。

ご発言がなければ、採決を行います。

議第19号 熊本市教育委員会事務局内部組織規則の一部改正について、ご承認いただくことにご異議ありませんでしょうか。

（異議なしの声）

遠藤洋路 教育長

ご異議なしと認めます。

議第19号については原案のとおり決定いたします。

〔採決〕 【原案どおり承認された】

・議第20号 熊本市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部改正について

《中川浩二 教育政策課長 提出理由説明》

〔採決〕 【原案どおり承認された】

- ・議第21号 熊本市教育委員会職員証規程の全部改正について

《中川浩二 教育政策課長 提出理由説明》

〔採決〕 【原案どおり承認された】

- ・議第22号 熊本市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例第19条の規定に基づく教育委員会が給与を定める職員等に関する規則の一部改正について

《福田衣都子 指導課長 提出理由説明》

苫野一徳 委員

人数は何人ぐらいいらっしゃるのでしょうか。

福田衣都子 指導課長

人数に関しては、現在募集中でありまして、決定ではございませんが、5人程度を任用できればと考えております。

遠藤洋路 教育長

他にご意見、ご質問はありますか。

ご発言がなければ、採決を行います。

議第22号 熊本市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例第19条の規定に基づく教育委員会が給与を定める職員等に関する規則の一部改正について、ご承認いただくことにご異議ありませんでしょうか。

(異議なしの声)

遠藤洋路 教育長

ご異議なしと認めます。

議第22号については原案のとおり決定いたします。

〔採決〕 【原案どおり承認された】

- ・議第24号 熊本市博物館の登録に関する規則の全部改正について

《中川浩二 教育政策課長 提出理由説明》

〔採決〕 【原案どおり承認された】

日程第4 報告

・報告（1）子どもたちの心のケアについて

《須佐美徹 総合支援課長 説明》

澤栄美 委員

今報告にあったとおり、その他の要因によるカウンセリングが必要と判断した児童・生徒数が増えているということですが、この原因とといいますか、そういったものが何か明らかになっているところがあるようでしたら教えてください。

須佐美徹 総合支援課長

相談内容に関して、最も多かったのは児童・生徒自身のことというところで、学校の生活、それから家族、生活、学習のこと、その他というところでアンケートを取っているんですが、その中ではかなり他よりも多く、倍以上多い状況でした。子ども自身のことというところで心身の健康等、そういう相談が一番多いということになっております。

澤栄美 委員

子ども自身が心身に困難を抱えていて、自分から希望して、あるいは担任というか周りの教員から勧められてということですよ。不登校数も増えてきていると思いますが、折れ線グラフにしてみると、やっぱり同じようなカーブを描くような傾向になっているのでしょうか。

須佐美徹 総合支援課長

不登校児童・生徒数に関してはもうずっと増加傾向で、本年度も、現時点で、昨年度が2,152名だったんですが、さらに500名ぐらい増えそうな感じです。

このその他に関する相談件数を学校から上げていただいているんですけど、こちらもずっと増加傾向です。実際、相談の中で不登校に関するものも多いので、その傾向はやはり大きいと思います。

<p>澤栄美 委員</p>	<p>やっぱり不登校が増えているということと、心身の困難を抱えている子どもが増えているということを考えると、やはりそういう問題に対応していくことが必要かなと考えたところです。</p>
<p>小屋松徹彦 委員</p>	<p>私も澤委員と同じような疑問を持ちました。今後増えていくその他の要因によるものというのを、もう少しアンケートを取る段階で細かくできないのかなと思いました。ここがもう少し具体的ににならないと手も打てないという気がしますし、また、これが家庭とか個人になってきたときに、どこまで学校が関われるかというところにも関係してくると思うんです。</p> <p>この3つ目のその他の要因によるものというのをアンケートの中でもう少し細かく聞いていくことのほうが、熊本地震とかコロナよりも優先課題になってきたんじゃないかなという気がしますので、よかったら検討願いたいと思います。</p>
<p>須佐美徹 総合支援課長</p>	<p>ご指摘ありがとうございます。この内訳につきましても、しっかり分析をできるようにやっていきたいと思います。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>最初は熊本地震の影響でカウンセリングが必要な子どもを年に何回か調査していましたが、今ではその他の要因によるもののほうが圧倒的に多くなっていますので、カウンセリングが必要な児童・生徒数ということで、その中の要因で、さっき上がったように自分の要因であったり様々な要因であったりで、地震とコロナもその中の要因の一つに分類するという集計の仕方でもいいのかもしれないですね。</p> <p>今年度はここまでこれでやってきましたので、来年度、また集計の仕方を少し検討してもいいのかなと思います。</p> <p>この地震とコロナに関しての集計というのはいつまで続けるのかというのは、事務局として何か考えはあるんですか。</p>
<p>須佐美徹 総合支援課長</p>	<p>地震に関しましては、地震が発生したときに入学した子どもたちが卒業するまでと思っておりますので、あと1年を一つの区切りとして考えているところです。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>コロナに関してはどうですか。</p>
<p>須佐美徹 総合支援課長</p>	<p>コロナに関しましても、このように変わってきておりますの</p>

	<p>で見直したいと思っておりますが、集計に関しましては、他の不登校の調査などとも確認をしながら決めていきたいと思えます。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>分かりました。</p>
苫野一徳 委員	<p>以前ももしかしたら議論になったことがあったかもしれませんが、カウンセリングが必要な児童・生徒はこのアンケートと、日常の健康観察を取ってということなんですけど、このアンケートに「私はカウンセリングが必要です」みたいなことを子どもたちが書く欄があるということなんです。</p>
須佐美徹 総合支援課長	<p>以前はそのような欄はなかったんですけど、「カウンセリングを受けたいですか」という欄を、今は設けているところです。それまでは学校からの報告の中で上げていただいていた。</p>
苫野一徳 委員	<p>少し気になるのが、こういうアンケートの取り方をすると、子どもたちの心が少し疲れているからケアをしたほうがいいねという発想に引っ張られ過ぎる可能性があるかなと思います。つまり、本当はもっと構造的な問題であったり、先生の体罰の問題であったり、そういう子どもの心に根拠を求めるというのは、いろんな理由があると思うんです。それをカウンセリングが必要ということでまとめてしまうと、子どものほうに要因を求めることになってしまう可能性もあるんじゃないかなという気がして、ちょっと調査のやり方も工夫をもう少しできないものかなという感じがしたところです。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>どんな感じの聞き方というか調査の仕方がいいんですかね。</p>
苫野一徳 委員	<p>子どもに尋ねるのはなかなか難しいところだとは思いますが、これはこれで一つ調査としてはあっていいとは思いますが、こういう調査があると、そっちに我々の意識が引っ張られる危惧があると思うんです。なので、私たちのほうで、これは子どもの心の問題なのか、それとももう少し構造的な問題なのかということを意識しておく仕掛けというか仕組みがあったらいいかなとは思っています。あまり具体的な話になっていないのですみません。</p>

澤栄美 委員	<p>苫野委員が言われたのもう一回読み返したんですけど、心と体のチェック表の中にそういう項目ができたということをおき須佐美課長がお答えになりましたよね。これはそのアンケートだけではなくて、恐らく学校の教育相談やスクールカウンセラーのことなど、いろんなことに関して担当している、主に養護教諭だと思うんですけど、その担当している者が子どものアンケートも含め、カウンセリングが必要な子どもを、担任の意見などを含めて上げた数ではないんですか。子どものアンケートの結果だけなんですか。</p>
須佐美徹 総合支援課長	<p>心と体の振り返りシート等を使ったアンケート結果、それから、今おっしゃったような周りからつないだ部分、学校のほうで把握している部分を上げてあるものということになります。</p>
澤栄美 委員	<p>私と思うのは、さっきも同じことを言いましたけど、子どもが、自分が受けたほうがいい、受けたいと判断したのはある程度、一部であって、恐らく担当者が判断してカウンセリングとしてカウンセラーに必要ということで上げたものだと思うんです。私も以前はそうやって上げていました。だから、苫野委員がおっしゃりたい構造的なことという話とは少しずれていると思いますけど、もしかして子どものアンケートだけとされているかなと思ったので、そのところははっきりさせておきたいなと思いをしました。</p>
須佐美徹 総合支援課長	<p>学校のほうから上げていただいているんですが、実際子どもへのカウンセリングが必要だと思っても、受けていない子どもの中には入っております。その子たちは次回の回の調査に継続して入っているところです。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>カウンセリングが必要だと判断している要因が、本人によるものなのか、あるいは周りの環境とか仕組によるものなのか、それぞれあるんだと思いますけど、この集計でいえば、本人かあるいは周りの教職員がカウンセリングが必要だと。どんな理由であれ、そう判断した人が全部入っていると、そういうことですよね。</p> <p>苫野委員がさっきおっしゃっていた、恐らく本人にカウンセリングをしたらそれで解決するという問題じゃなくて、構造的な問題とか環境的な問題があるということについては、例えば</p>

澤栄美 委員

この数を減らしたいと思うなら、本人に働きかけるだけじゃなくて、周りに何か見直すべきところがあるんじゃないかと、そういう視点で私たちも見たほうがいいんじゃないかと、そういうことですよね。私たちというか学校も含めてですね。

学校のシステム自体に何か課題があるということもあるんじゃないかということを苦野委員はおっしゃりたかったんじゃないかなと私は理解しているんですけど、そうすると、やっぱり働き方改革に関しての取組も大切ですよ。

私はスクールカウンセラーとしての仕事もしていますが、そのとき学校で、とにかく先生たちが大変なんですというようなことをおっしゃる方や、学校がばたばたしていますとおっしゃる方もいらっしゃるんです。ただ、このような子どもにしっかりと向き合えない状況とか、それから以前に、市役所で、市長さんと一緒に会議を行いましたけど、福祉的な部分と学校がどうタッグを組んでいくとか、そういったことも含めて、いろんな角度から学校の問題をあぶり出して行って、それらを総合して子どもたちにカウンセリングが必要になっているんじゃないかというところまで、併せて見られるようになるのかなとは思っています。

遠藤洋路 教育長

先ほど澤委員がおっしゃったように、不登校の数とかなり似たような推移になっているのは確かなので、システム的な要因もあるんでしょうけど、カウンセリングが身近になったというかハードルが下がったというか、認知が進んだという、そういうことも増えている要因としてはあるんだと思います。

数年前に比べたら気軽にカウンセリングが受けられるようになったのであれば、それで増えているということも考えられます。必ずしも子どもの状況が悪化しているとか周りの状況が悪化しているだけではないのかもしれないなというふうに思います。いろんな要因があるんだろうなとは思っていますので、その辺も総合支援課が、苦野委員から先ほどご指摘いただいたように、ここに出てくる数字が必ずしも本人に要因があるだけとは限らないという、そういう視点で対応策についても考えていただくという、そういうところが必要なのかなとは思っています。そこはよろしくお願いします。

他にご意見、ご質問はありますか。

ご発言がなければ、本件は以上といたします。

・報告（2）令和4年度（2022年度）熊本市学校給食運営協議会評価報告書について

《上村清敬 健康教育課長 説明》

澤栄美 委員

給食運営面で人員が不足しているという、慢性的な人員不足の状況が改善されないというのがあるんですけど、人員不足はなぜ起きているかというのは分かっているんですか。

上村清敬 健康教育課長

確かにお辞めになる方が大変多いと聞いておまして、待遇面に不満があるというのがお辞めになる主な理由です。

民間委託に際しまして、給料を私たちが決めるわけではありません。一定程度の基準がありまして、それを積み上げて委託料としてこちらが積算して、それを下回った場合が落札されるわけなんですけど、正直言います、委託だけでなく直営のほうもほとんど慢性的に人員不足の状況にありまして、直営・民間委託同様に給食業界というのは人手不足に陥っている状況ではございます。

澤栄美 委員

4ページに受託会社が上がっているんですけど、その中でもちょっと差があったりするんですか。

上村清敬 健康教育課長

濃淡はございますけど、正直言います、どこも満足に充足しているところは少ない状況です。中でも特に目立つところに関しましては担当者呼んで、昨年度は文書で指導したということもございましたが、正直それが改善してもまた同じような状況に戻ってという大変悩ましいような状況でございます。

澤栄美 委員

委員会レベルでどういうできることでもないというのはよく分かったんですけど、アレルギー対応に関してはやっぱり命に関わることで、数年ごとにいろんな自治体で重大なアナフィラキシーも起きているので、委員会レベルでできないことかもしれないんですが、人員が確保されるといいなというふうに思いました。

小屋松徹彦 委員

これは毎年評価されると思うんですけど、それぞれの観点において、年度ごとの何年かの推移といたしますか、ここら辺はどうなっているのでしょうか。もう一点は、これを受けている業者側からの要望とか、こうしたらこうなるんじゃないかという改善点とか、そういったことを聞くような機会というのはあるのでしょうか。

上村清敬 健康教育課長

まず、1点目のこの評価の推移でございますが、今年度標準的であったところ、過去4年間、この協議会に評価していただいているんですが、一度だけ良好ということがございましたが、あとの3回は標準的という評価をいただいております。

委託業者側からの改善の提案というご質問だったかと思うんですけど、給食連絡会という機会を学期に1回は設けておりまして、今回の評価に関しましては、全てを回ることが難しいということもありまして抽出した委託業者だけなんですけど、給食連絡会につきましては、この7つの業者全てと毎学期ごとに協議を行いまして、委託業者と栄養教諭と教育委員会が学期ごとに現状と課題、対策について協議して改善を図っているところです。

小屋松徹彦 委員

せっかくこうやって点数が、評価点が出るわけですから、これを1点でも0.1点でも上げるという、そういったことを重ねていかないと、これは切りがないかなという気がするんです。そういう観点からもう少しこの評価点にコミットして、これをちょっと上げるために、じゃ、どうするかという、そういったことも検討されてもいいかなと、その業者の方も含めて。そう思いました。

苦野一徳 委員

学校給食について詳しくないのですが、民間委託というのは、基本的にコスト削減ということを目指してやってきたというのが多くの自治体の実情だと思うんです。実際にコスト削減されているのかということをおそらくこの評価ではなされていないと思うんです。その検証が必要なんじゃないかなと思います。一方で、やっぱりそこら辺ばかりに目がいくと、栄養面であったり衛生面であったり、あるいはせっかくの地の物というか、豊かな熊本の農作物とか、そういったものも子どもたちに味わってもらいたいと思うので、そういったことにどれぐらい配慮されているのかなとか、そういったこともやっぱり評価項目と

	<p>して必要なんじゃないかなという気がするんです。</p> <p>そういったことがちょっと項目にも入っていないなと思ったので、コスト削減が本当にできているのかということと、栄養面や、やはり地元で取れたものへの愛着というか、そういったものへの配慮というものがどれぐらいできているのかなということ、もしご存じであればお聞きしたいのと、もしあまりはっきりとそういったことが調査されていないのであれば、今後もっとそこを調査項目に入れていくべきんじゃないかという点をお願いできればと思います。</p> <p>前提といたしまして、民間委託する際の目的といたしましては、民間でできることは民間でやる。決してコスト削減が第一ということではございませんが、当然それも含まれているところは実情としてあります。</p> <p>委託するのは、あくまで調理と洗浄に係る部分だけで、食材調達、献立作成は従来どおり市が責任を持って行っております。委託する学校には、まずはその点をお伝えして安心していただいて、あくまで委託は調理と洗浄に係る部分だけですので、この評価項目には食材に関する部分は入っておりません。これは市内すべて同じ食材、標準献立で行っているところです。</p> <p>民間委託のメリットとしてコスト削減の話がありますが、これは確実にあります。ただ、今、直営のほうも、先ほど澤委員の質問の中でお答えしたとおり、人員不足に陥っておりまして、以前よりかなり絞った体制で直営のほうもやっておりますので、それほど、以前よりはコスト削減の幅が大きくはないというところではありますが、直営でやるよりは安価であることは間違いありません。</p>
上村清敬 健康教育課長	<p>私から非常に細かいところの質問2つなんですけど、まず1つは、例えば7ページを見ると、衛生管理面に関する評価ということで、3つ、4.0、4.0、3.9とあって、総合評価が3.9という。この総合評価というのは上の3つを平均しているわけではなくて、上の3つとはまた別に改めて出しているんですか。そこを教えてください。</p>
上村清敬 健康教育課長	<p>この3つを平均しますと3.9幾つになりますので、小数第2位以下は切り捨てて3.9点としたところです。</p>

遠藤洋路 教育長	<p>分かりました。四捨五入じゃなくて切り捨てになっているわけですね。</p> <p>あと、11ページのところで、運営面に関する評価の3つ目に職員研修の状況というのがあって、受託会社独自での研修開催状況、7回以上が51.0%、6回から2回が42.8%、1回以下が0.06%とあるんですけど、多分1回以下が少し違うんじゃないかと思うんです。足すと100にならないので。</p>
上村清敬 健康教育課長	<p>51と42.8を足すと93.8ですので、これが間違いである可能性が非常に高いものと推察されます。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>0.06じゃなくて6.2じゃないですか。</p>
上村清敬 健康教育課長	<p>そうですね。はい。ありがとうございます。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>パーセントじゃなくてパーセントにする前の数字が出ていたんですね。分かりました。</p> <p>全体として、標準的ということになっているわけですが、これをフィードバックというか、受託会社のほうに当然これを返して、また改善をさらにしてもらおうという、そういうサイクルになっていると思うんですけど、先ほど小屋松委員からもあったように、推移ということもそうなんですけど、今まで指摘されていることの改善状況というか、毎年のこのサイクルというのが見えるようにはなっているんですか。</p>
上村清敬 健康教育課長	<p>先ほど推移として申し上げましたが、品質面に関してと学校との連携面に関しては4年間全て良好となっており、衛生管理面と給食運営面がやはり標準的と評価されることが多いことが続いております。</p> <p>といいますのが、まず、衛生管理面につきましては、視察に行った際に委員の方々がチェックされることがかなり重く評価されているところですし、やはり抜き打ちで行っているわけではなく、こういうチェック項目でやるということも分かっているにもかかわらず、そこを満たしていないことが見受けられる。それは当然その業者にはすぐ指摘して、改善は、当時は図られるところなんですけど、また違う、大体新しい委託業者のところを見に行くということになってはいますが、それが会社内で行き渡っていないということが続いていることはこちらの指導</p>

	<p>力不足であることが否めないと思っています。</p> <p>あと、給食運営面につきましては、やはり校長先生方に対するアンケートを重視することが多いんですけど、最初に澤委員が心配されたとおり、やはり人材不足ということが、ここ数年続いておりました、校長先生の不満が解消されていないということにつきましては、我々としては大変苦慮しているところです。</p> <p>せっかくいただいているこの評価を次に確実に改善に転じさせているかという、そうではないところがございます。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>今質問をしたかったのは、この評価が出た後の流れということなんです。この評価が出た後、どういうふうにそれが各受託会社に伝わって改善につながるのかという、PDCAというんですか、そのところが、この後どうなるのかなど。毎年、毎年評価が出るだけではなくて、多分この評価に基づいて何か指導があったり改善があったりしていくのかなと思ったんですけど、そこはどうなっているのかということです。</p>
上村清敬 健康教育課長	<p>この評価報告書には個別の事業者名は出ていないところです。あくまで全体として民間委託がちゃんと適正に行われているかということの評価しているところなんですけど、我々としては、バックデータとしてそれぞれの事業者ごとの評価をもちろんいただいておりますので、それは、この委員会の場ではありませんけど、先ほど申し上げました学期ごとの給食連絡会という機会もございます。当然目に余るような衛生管理面であれば直ちに業者に対して指摘するというのもございます。</p> <p>運営協議会としてはっきりとしたPDCAサイクル、表の面には出しておりませんが、当然いただいたご意見は貴重なご意見ですので、我々教育委員会事務局として委託業者と受託業者との関係の中で指導しているところです。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>分かりました。この評価は主にそのまま受託会社に返して改善してもらおうというよりは、健康教育課がこの評価をもらって、その後に生かす材料にすると、そういう理解でいいんですね。分かりました。</p> <p>他にご意見、ご質問はありますか。</p> <p>ご発言がなければ、本件は以上といたします。</p>

日程第5 自由討議

- ・テーマ「教育委員会行政視察について」

遠藤洋路 教育長

次は、日程第5の自由討議で、今月は教育委員会行政視察について行う予定でしたが、本日は出川委員と西山委員がご欠席のため、全員が出席予定の来月に行うことといたします。

- ・退職者挨拶

遠藤洋路 教育長

では、この後は非公開案件になりますが、その前に、今年度末でご退職を迎えられる松島次長、それから、本日オンラインで出席の市立図書館の大谷館長、総合ビジネス専門学校の古家校長、3名の皆様から一言ずつご挨拶をいただきたいと思えます。

まず、松島次長です。

松島次長におかれましては、校務支援システムの本格稼働や学習指導要領改訂への対応をはじめ、コロナ禍においては様々な取組を牽引するなど、本市の教育行政全般にわたりご尽力をいただきました。長い間、大変お世話になりました。

松島次長から一言お願いいたします。

《松島孝司 教育次長 挨拶》

遠藤洋路 教育長

続きまして、市立図書館の大谷館長です。

大谷館長におかれましては、電子図書館の利用推進や山鹿市との図書館相互利用サービス協定の締結など、図書館の機能充実にご尽力をいただきました。大変お世話になりました。

大谷館長から一言お願いいたします。

《大谷修一郎 市立図書館長 挨拶》

遠藤洋路 教育長

続きまして、総合ビジネス専門学校の古家校長です。

古家校長におかれましては、市立高校、専門学校の改革に向けた検討や学校現場での改革の実践にご尽力をいただきまし

た。大変お世話になりました。
古家校長から一言お願いいたします。

《古家幸生 総合ビジネス専門学校校長 挨拶》

〔閉会〕

遠藤洋路 教育長

本日の会議日程は全て終了いたしました。これで、令和5年3月定例教育委員会会議を閉会いたします。